

M臨31-1

2025年度 大学院入学試験問題【Ⅱ期】
文学研究科 臨床人間学専攻 現代社会学専修 (博士前期課程)

科目：論文・専門科目 (辞書使用=不可。ただし外国人留学生入学試験受験者のみ可)

◎[Ⅰ]と[Ⅱ]の両方の問題に解答しなさい。解答用紙は[Ⅰ]と[Ⅱ]でそれぞれ1枚(計2枚)を使用しなさい。

[Ⅰ] 次の(1)～(5)のすべての用語の意味を、番号ごとに記述しなさい。

- (1) ラベリング理論 (labeling theory)
- (2) メリトクラシー (meritocracy)
- (3) 内発的発展 (endogenous development)
- (4) 質的調査法 (qualitative methods)
- (5) エートス (ethos) (M.Weber が用いた意味での)

[Ⅱ] 次の(1)～(8)からどれかひとつを選んで論述しなさい(選んだものの番号を記すこと)。

- (1) 「受益圏」「受苦圏」概念は、現代の環境問題の解明にどのように有効でしょうか。
- (2) ポスト冷戦期の世界において、ナショナリズムの脱領域化は、具体的にどのような形態で生じているでしょうか。
- (3) ジュディス・バトラー (Judith Butler) の「ジェンダー・トラブル」(gender trouble)に関する論議の要点をまとめ、批判的に論評しなさい。
- (4) 「異性愛/同性愛」概念と、構築主義-本質主義論争の関係性について述べなさい。
- (5) 暴力を怒り (anger) という情動に基づいて説明することの妥当性と、そのような説明の限界について述べなさい。
- (6) 主に 1970 年代以降、現在に至る、社会運動論のパラダイム転換について述べなさい。
- (7) 社会現象の研究において、「説明」(explanation)と「解釈」(interpretation)はお互いにどのように位置づけられるべきでしょうか。
- (8) グローバル・サウス (global south) からの社会学、ないしはポストコロニアル社会学 (postcolonial sociology) が有する、今日から将来に向けての可能性について論じなさい。